

Fons Sapientiae

仙台白百合女子大学図書館報 「フォンス サピエンティエ」



No.21
2021.4.1

Contents

- ・より良い図書館をつくるための懇談会
- ・新着図書紹介
- ・教員の近刊単・共著の紹介
- ・推薦図書
- ・図書館が行ったコロナウイルス対策の概要
および環境整備の取り組み
- ・図書館の活動報告
- ・地域貢献研究センターの活動報告
- ・2020年度図書館関係会議・研修会報告



より良い図書館をつくるための懇談会

2020年に発生した新型コロナウイルス問題は、本学図書館にとりまして大きな災禍でした。とくに前期は、対面での対応ができない状況のもと、学生および教職員の皆さまに、図書館をどのように活用していただくかということが課題でした。至急行いましたのは、オンライン授業の中での指定・参考図書の選定・購入、郵送による図書の貸し出しシステム等の整備です。そして対面授業になりました後期、直接学生の意見をうかがう「より良い図書館をつくるための懇談会」を昨年度に引き続いて開催することにいたしました。



参加者や具体的な意見の抄録は、下記のとおりです。ご高覧下さい。

このように自由闊達な意見・提案が出されました。ご協力くださった学生の皆さま、ありがとうございました。おかげさまで図書館利用者数、図書貸し出し件数が増えました。これからも図書・地域貢献研究委員会では、学生の皆さまの貴重な意見を真摯に受け入れ、まさにより良い図書館にしていくために鋭意努力していくつもりです。

常日頃皆様からのリクエストを承っておりますが、来年度も「より良い図書館をつくるための懇談会」を開催する予定です。興味のある方は、ぜひお声がけください。

今後ともご指導・ご鞭撻賜りたくどうぞよろしくお願い申し上げます。

仙台白百合女子大学図書館長

図書・地域貢献研究委員長 大本 泉

日時：2020年12月16日(水)12:20～12:50

場所：321室(3号館2階)

参加者：学生8名、教職員6名 計14名

●参加者名簿

学生		教職員	
人間発達学科 小笠原果穂(1年)	健康栄養学科 小畑 碧(1年)	健康栄養学科 斎藤 晃江(3年)	金今 碧(1年)
心理福祉学科 奈良岡愛梨(1年)	高橋 美紅(2年)	グローバル・スタディーズ学科 鈴木 優香(2年)	平塚 優杏(3年)(敬称略)
		大本 泉(図書館長,GS学科教授)	熊谷 健二(GS学科准教授)
		岡 敬一郎(人間発達学科教授)	高橋 豊(事務局長,図書館事務長)
		鈴木 寿則(健康栄養学科准教授)	谷藤 大介(図書館主任)

●学生からの意見

意見	対応案
ビンゴカードを活用してほしい。本につけた番号をカードに○で記入してビンゴにする。終了した人にはしおりなどをプレゼントする。	ビンゴカード等の他、従来試行していた貸出スタンプカード等の楽しいイベントの実施を検討します。
おすすめの本を月、週の単位でジャンル毎に紹介してほしい。	図書館入り口の右側のスペースに掲示します。
タイトルを見ても内容が判らない本があるのでポップを付けて紹介してほしい。	適宜、推薦本の内容をポップに示すことにします。
図書館は静かで落ち着いた場所だけど、静かすぎて行きづらいという声もある。コミュニケーションスペースなど、少しでも会話できる場所が欲しい。	大改築を伴うラウンジとなると大学全体の問題として検討する必要があります。現時点では会話のできる1階奥や3階にあるカフェコーナーをご活用ください。
(勉強に必要な)本が足りない。同じ本がなぜあるのか?また種類により偏りがある。	指定図書や利用者の多い本は、複数冊ある場合があります。必要な本はどんどんリクエストしてください。できる限り要望にお応えして購入します。
雑誌を設置してある場所がわからない。目につくところに設置してほしい。	設置場所に誘導する表示等をわかりやすくします。
図書館は静かだから良いということ売り出しても良い。しかし、コミュニケーションの場所もあった方が良い。	現在、学習と談話との目的別ゾーンに区分しています。談話できる3階にあるカフェコーナーの掲示をわかりやすくいたします。ご利用ください。
学びになる漫画(『働く細胞』・『もやしもん』他)を設置してほしい。	蔵書のバランスを考慮して購入します。
SNSを使った図書館との連携を行い、新刊の紹介などをしてほしい。	SNSは行っていないですが、新刊の紹介は図書館HPに掲載しています。ご覧ください。
雑誌の付録の抽選会をしてほしい。	2020年度は2021年1月5日から抽選会を開始します。
静かすぎるのが嫌な人もいる。BGMを流すことはできないか。	図書館の環境全体のありかたを検討してみたいと思います。
館内に軽食ができる場所がほしい。	飲み物は認めますが、軽食となると1階の奥・3階にあるカフェコーナー等が可能でしょうか。検討後、その結果をお知らせします。
新しい本を館内でもっとアピールするべき。入口から遠すぎる。テーブルや本棚に本の写真を貼って紹介する、など。	設置場所を含めて、入り口からの案内表示や推薦本の展示方法等を工夫します。
勉強しながら会話できるスペースを設けてほしい(自習室)。壁などで音が聞こえないような学習スペース。	ラーニングcommons等のようなイメージをお持ちでしたら、大学全体の問題としてとらあげていきます。現時点における図書館内のグループ学習は、1階奥にてできます。
主に小説のコーナー。作者毎に本を探していて、作者別50音順にしていきたい。	現在PC検索の利便性からタイトル順になっていますが、検討します。
本のリクエストの用紙について、1枚の紙に何冊か書けるようにしてほしい。	早急に用紙を修正して複数冊記入できるように対応します。
図書館1階の話題の図書コーナーが奥にあるので、カウンターの近くに置くと本に興味を持ってもらえるのでは。	設置場所を含めて、入り口からの案内表示や推薦本の展示方法等を工夫します。
参考文献(実験やレポート、臨地実習)などの本にポップがあれば、役立つのでは。	参考文献のみを指定することによって、特定の資料だけが利用され、学習者の偏りが生じないように、わかりやすい配架を工夫をしてみます。

新着図書紹介

『村度しません』 斎藤 美奈子 著 筑摩書房



書名の『村度』は前首相の時に喧伝された言葉。出版直前に首相が辞任してしまったため、いささか時期遅れの印象を伴ってはいるが、中身はかなり充実している。近年の時事問題から、歴史、文学、フェミニズム、新型コロナ感染まで、42の多岐にわたるテーマを各編7ページほど、関連する図書3点に言及しつつ、鋭く解析していく。どこからでも、興味が惹かれるテーマから読んでいって構わない。特に就活等で時事問題の把握に四苦八苦している方には、最初の章「バカが世

中を悪くする、とか言ってる場合じゃない」の10編をお読みいただきたい。章の過激なタイトルにも示されているとおり、簡潔で切れのある、突っ込みも抜群な文章で、時事問題理解への取っ掛かりになるはず。読書嫌ひには、各編末にある図書3点の4行書評だけでもお読みいただきたい。ヨイショ本から名著まで、歯に衣を着せぬ書評が適格で面白く、読書欲をそそる。

(宮野 眞理子)

『浮世女房洒落日記』 木内 昇 著 中公文庫



2011年「漂砂のうたう」で第144回直木賞を受賞した木内昇による江戸日記小説。今から二百年程前の江戸時代の暮らしを27歳のお暮の目線を通して丁寧に描かれている。神田で小間物店を営むお暮は、うだつの上がらない亭主と二人の子どもと質素ながら幸せに暮らしている。隣近所の人々と春の花見見物や美肌の話題で盛り上がり、時に男前の火消しにときめく様子は現代の女性と変わらない。

今でも日常的に行われている日本古来の風習や習慣が春夏秋冬に合わせて綴られており、江戸の人々の生活を細かに知ることができる。便利な生活が当たり前になった現代人には、不便で面倒に思えることも知恵や工夫をこらし、助け合いながら過ごす様子は何とも楽しく興味深い。江戸用語の解説も付いているので、当時の様子をより詳しく知ることができる。

(浅岡 京子)

『推し、燃ゆ』 宇佐 美りん 著 河出書房新社



第164回芥川賞受賞作品。本作は2019年の前作、『かか』で第56回文藝賞、21歳の最年少で三島由紀夫賞を受賞した新鋭作家による第2作目。主人公の山下あかりは「生きにくさ」を感じながら暮らす高校生。学校生活も家族関係も上手くいかず落ち込む日々の中、彼女は「推し」のアイドルグループ「まぎまぎ」のメンバー・上野真幸を追いかけ、SNSを確認したり、発信したりすることを心の拠り所としていました。その「推し」がファンを殴って炎上したというのです。推しを推すこと

が全てだったあかりが、突然の推しの凋落と喪失による絶望と、そこからゆっくりと自己の再生へ歩み始めるまでを綴った短編です。古典的な純文学をオマージュする構成をとりながら、生きにくさを感じている若者の生き方や思考が精緻な描写で鮮烈に表現されている良作です。誰しも憧れの人物や芸能人はあるものです。案外身近な「推し」を「推す」、世界を体験し自己を見つめなおすきっかけとして楽しみながら一読ください。

(谷藤 大介)

教員の近刊単・共著の紹介

『〈生きる意味〉の教育 —スピリチュアリティを育むカトリック学校—』 加藤 美紀 著 教友社 グローバル・スタディーズ学科 准教授 加藤 美紀



カトリック学校およびカトリック大学では、いかなる宗教教育を実践することによって、青年期生徒・学生の生きる意味への問いを支えることができるのでしょうか。本書では、「自己超越を通して意味を見出す働き」としてのスピリチュアリティに焦点を当て、フランク思想と物語論(ナラティブ研究)を手がかりに解明を試みています。博士論文を加筆修正し、それを発展させた研究論文も併せて収録した本書は、三部15章構成です。ユング派心理学やヘルティ思想も援用しながら、青年期の意味探求の実態、意味形成の三要素を生かす授業実践

と教師の在り方、道徳教育との違い、巡礼旅行やキャリア教育など、多様なテーマを取り上げました。高校・大学の教育現場のみならず、教会の福音宣教、霊性研究、一般教養にも役立つ知見を紹介し、生きる意味を見失いがちな現代人に希望の在りかを示唆する一冊となるよう心がけました。出版社より「キリスト教的人間論を元にカトリック教育の現代的意義を明らかにする、カトリック教育学を学ぶための基本的文献」とご紹介いただいております。

『子どもとかかわる人のための心理学 ~保育の心理学, 子ども家庭支援の心理学, 子どもの理解と援助への扉~』 沼山 博・三浦 主博 編著 萌文書林 人間発達学科 教授 三浦 主博



発達心理学と保育との橋渡しになる「保育の心理学」のテキスト(2013年刊行)の増補改訂版であり、2019年度からの新科目「子ども家庭支援の心理学」「子どもの理解と援助」の内容を追加して、保育士養成課程の3科目に対応できる内容になっている。子ども達の発達だけでなく、家庭やライフスタイル、社会の変化に関する事情など、保育に関連する内容に即した様々な心理学的事項をトピック形式で分かり易く解説しており、近年、保育や幼児教育で高い関心を

もたれている非認知能力(社会情動的スキル)、発達障がい、親発達、家族・家庭、そして児童虐待などについても取り上げている。筆者(三浦)は、編著者として、第3章「子どもの学びと保育」と、第4章「子どものこころの健康と生活環境」の一部を執筆しており、保育と子どもの発達、子どもの発達段階に関する理論、発達に関わる課題と障がい(発達障がい、気になる子がいるクラス運営)等について概説している。

『ソーシャルワークの基盤と専門職』 空閑 浩人・白澤 政和・和気 純子 編著 ミネルヴァ書房 心理福祉学科 教授 白川 充



この本は2021年度より導入される社会福祉士養成課程の新カリキュラムにおいて、ソーシャルワーク機能を学ぶ科目として示された「ソーシャルワークの基盤と専門職」のテキストである。全体の構成は社会福祉士・精神保健福祉士が共通に学ぶべき内容と、社会福祉士として専門に学ぶべき内容を一本化して編まれている。全11章300頁にわたるもので、ソーシャルワーク研究者13名(内、2名はトロント大学准教授と博士課程在籍)が分担執筆している。私が担当したのは、第6章「ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲」の1~4節(pp.133-148)である。編者である同志社大学の空閑先生から依頼があり、何気なく引き受けたが、実際に執筆の段になると大変であった。たしか執筆したのは、昨

年の6~7月あたりだったと思うが、大変だった理由は、ひとつはコロナ禍でオンライン授業の準備に追われていたこと。ふたつめには、社会福祉士・精神保健福祉士国家試験委員の仕事と重なったこと、そして最後に、ミネルヴァ書房との仕事が始めて様子が変わらなかったことである。そうはいつても、いつも思うことだが、本というのは、こうして出来てしまうとホッとします。他の執筆者の記述と相俟って、あたかも自分の原稿までもが、よい出来であるような気になるのである(実際にはどうかかわらないが)。そんなわけで、社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験を目指す学生さんには是非、読み込んでもらいたい一冊である。

『尾崎紅葉事典』 山田 有策・木谷 喜美枝・宇佐 美毅・市川 紘美・大屋 幸世 編 翰林書房 グローバル・スタディーズ学科 教授 大本 泉



尾崎紅葉は、1867(慶応3)年江戸に生まれ、36歳で早世した作家です。紅葉の代表作のひとつ『金色夜叉』(1897年)では、いわゆる近代文学の中で、逸早く愛をとるかお金をとるかといった問題がとりあげられ、お金が人間を狂おしくするさまを深刻にあるいは滑稽に描かれました。徳富蘆花『不如帰』(1900年)とならぶ明治時代の大ベストセラー作品です。紅葉文学は、現代の口語文体に慣れている私たちにとって、少々とつきにくいかもしれませんが、同時代に降り立ってみると、新しい文体を確立するための工夫がよくなされていることがわか

ります。また紅葉は小説のみならず、翻訳、漢詩、新体詩、俳句、狂歌、浄瑠璃、都々逸等多岐にわたる文学活動をしました。本書は、近世文学から新しい近代文学を創造していく紅葉の文学的全貌を、多視角的に作品編、人名編、事項編、解説編、資料編の部立てから明らかにしようとしたものです。筆者は、作品編の一部を担当執筆しました。紅葉文学を読んでから本書を手にとるか、本書に目をおいてから紅葉文学を読むか、楽しみ方は自由です。どうぞご活用ください。



推薦図書

『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』 ブレイディみかこ 著 新潮社 人間発達学科 教授 岡 敬一郎



多くの賞を受賞し、書店で目にするのが多かった本書を、すでにお読みになった方もいらっしやるかもしれません。帯には次のように書かれています。

英国で「ぼく」が通うイカした元・底辺中学校は、毎日が事件の連続。人種差別丸出しの美少年、ジェンダーに悩むサッカー小僧。時には貧富の差でギスギスしたり、アイデンティティに悩んだり……。世界の縮図のような日常を、思春期真っ只

中の息子とパンクな母ちゃんの著者は、ともに考え悩み乗り越えていく。私的に普遍的な「親子の成長物語」。

本書をゼミで取り上げたところ、自らの思考法や社会のあり方を考え直すきっかけとなったようで、学生にはたいへん好評でした。日常生活がテンポよく描かれた親しみやすい物語でありながら、読者それぞれの視点からさまざまな示唆が得られる良書だと思います。

『死んだ金魚をトイレに流すな —「いのちの体験」の共有—』 近藤卓 著 集英社新書 心理福祉学科 准教授 茂木 千明



飼っていた金魚が死んだあと、どうするか。きつと、お墓を作って弔う家庭が多いでしょう。しかし、なかには、生ごみとして廃棄したりトイレに流したりする家庭もあるようです。著者は、日常生活での生命とのかかわり方、「いのちの体験」を共有することの意味について、自分の経験と知見に基づき、「どのように子どもにいのちの大切さを伝えるか」を説いています。

命あるものを「ただのモノ」として扱ってしまうことに恐さを感じます。いのちの大切さを軽視した

態度や行動は、自身や他者を傷けることにつながるからです。まずは「何よりも私は大切な存在だ」という、一人ひとりが自分自身のいのちの大切さを確信できるように、いのちの大切さを実感しているおとなが態度や行動で示さなくてはいけないことを考えさせられます。

深いテーマですが、とても読みやすく、日常生活での子どもとの接し方の参考になるのではないのでしょうか。

『世界のニュースを日本人は何も知らない』 谷本 真由美 著 ワニブックス 健康栄養学科 准教授 鈴木 寿則



普段からニュースや新聞はみてるっやいますか。そのとき、私たちが注目するものは何でしょう。「老人の車が暴走しました」そんなトピックがトップニュースとして流れる日本について、この本はハッと何かを気づかせてくれます。たとえば、米国や英国の新聞では、

- ・オピオイド危機でジョンソン&ジョンソンに判決
- ・アマゾンの火災でブラジルが貿易交渉でEUを脅す

などが取り上げられています。そんなことは知らなかった、そんな堅い内容なんてと思うかもしれませんが

ん。しかし、米国や英国では、そのような内容を読むことが当たり前になっていると指摘しています。

この本は、国際的な情勢を解説するものではありません。情報について危機的ともいえる日本の現状、われわれ日本人の情報環境を踏まえたうえで、他人が重要だという情報でも、実は重要ではない、または偏っている、そんな視点を気づかせてくれるはずです。

この本を読んだ後は、「自分で」勉強したい、きちんと情報を見極めたいと思うことでしょうか。

『民主主義とは何か』 宇野 重規 著 講談社現代新書 グローバル・スタディーズ学科 講師 セバスティアン・マスロー



2019年後期以降の世界的新型コロナウイルス感染（パンデミック）に対して、世界中の政府がロックダウン（都市封鎖）を打ち出し、国民の移動や集会の自由を制限せざるを得なくなった。これらは民主主義にとって必要不可欠であるにもかかわらず、それらを厳しく制限する諸対策は、多くの人々の不満をもたらした。その反面、自由民主主義国家の合意形成は時間を必要とし、危機対応の遅延もまた多くの不満の要因となっている。権威主義体制のような素早い対応が望まれつつも、自由の制限を許さないということが今の民主主義をめぐるパラドックス（矛盾）であり、近年、欧州や米国の自由民主主義を揺るがしているポピュリズムの温床にもなっている。本書では、政治学者の宇野重規氏が古代ギリシアまで遡る民主主義の起源と発展を再検討し、

歴史上、様々な危機を乗り越えてきた民主主義の条件を論じている。もちろん、民主主義は永遠に存続する保証はないものの、民主主義を守り、より良い民主主義を作るための市民や政治家の日頃の努力は必須である。自らの行動が他者を感染させるリスクがある今、私たちが経験しているコロナ危機は、他者への配慮という力を与えている。民主主義においては、通常、多数決による政策決定が行われるが、他方で、少数派の権利の尊重もまた不可欠である。他者を考える力こそが、ポストコロナ時代を生きるための民主主義のアップグレードを可能とする。宇野氏が描く民主主義こそが、今後の感染症や地球温暖化など現代社会が直面する諸課題にも対処できるのである。

図書館が行ったコロナウィルス対策の概要および環境整備の取り組み

2020年度は新型コロナウイルスが猛威を振るい、図書館は対策に追われました。4月7日の緊急事態措置の発令から、4月16日の緊急事態宣言の全国発令に至り、ここ仙台でもコロナウィルス感染対策の対応に迫られ、大学は立ち入り禁止。図書館も段階的に閉館するとともに、在宅で資料を利用できる対応を行いました。図書館は交代で在宅勤務を行なう傍ら、5月1日には在学生に対する図書の郵送貸出やオンラインデータベースのリモートアクセスの提供を開始しました。6月1日からはコロナウィルス感染対策として徹底した館内の消毒とソーシャルディスタンスの確保、来館者の検温を行いながら、申込制による限定開館を実施。その後感染者数の減少に伴う大学の対面授業の開始に合わせ、7月1日より通常開館に戻り現在に至ります。また図書館では感染対策を行うと同時に環境整備も計画し、8月10日に図書館1階へのエアコン2基の増設を行い、図書館が快適な学習環境となるよう対応しました。

図書館の活動報告

(1) 図書館のNIE活動「就活に役立つ新聞活用講座」を実施

2020年12月16日(水)、12月23日(水)、2021年1月20日(水)、2月3日(水)の4回にわたり、河北新報社様のご協力をいただき、図書館主催のNIE活動「就活に役立つ新聞活用講座」を実施しました。講師の河北新報社防災・教育室丹野綾子さんは新聞の読み方や情報の調べ方、新聞記事を参考とした文章作成方法、人事担当の経験からの就職活動へのアドバイスなど、人生の先輩としてのメッセージを学生に伝えていました。受講した学生は、とても良い勉強になり、また機会があれば参加したいと感想を述べています。



図書館のNIE活動

(2) 雑誌の付録抽選会を実施

図書館のイベントとして、1月に雑誌の付録をプレゼントする抽選会を実施しました。16名の学生から応募があり、うち抽選で4名が当選しました。学生からはぜひ次回も応募したいとの反響がありました。

- ① PAUL&JOEネコ柄チケットホルダー
『日経WOMAN』(2019年7月号付録)
- ② MARK'Sオリジナルカードケース
『日経WOMAN』(2018年7月号付録)
- ③ 尾形光琳デザインブランケット
『サライ』(2019年1月号付録)
- ④ レトロ可愛い抗菌マスクケース
『栄養と料理』(2021年1月号付録)



地域貢献研究センターの活動報告

地域貢献研究センターでは、コロナウィルスの影響下のもとで、予定していた各種講座が全て中止となるなど活動に大きな制限がある状況ではありましたが、後期から十分な感染対策を行いながら積極的な地域貢献活動を展開しました。

(1) 鶴が丘一丁目町内会との連携事業

仙台市協働まちづくり推進事業として、鶴が丘一丁目町内会と本学との連携事業を展開しています。「食交流による多世代間交流活動」として、町民の方々と協力し、地域のコミュニティ食堂を立ち上げ、健康栄養学科の山城先生による健康教室や健康に良い食事の提供などを通じて地域交流の場をつくり、地域の健康増進のための活動や情報提供などを行いました。また、連携事業の一環として町内会活動に学生がボランティアとして主体的に参加し、地域のための様々な活動の中でそれぞれの力を発揮していました。



(2) いずみ絆プロジェクト

2020年度いずみ絆プロジェクトとして、本学からは2件の採択がありました。

1件目は健康栄養学科佐々木ゼミの「新型コロナウイルスに負けない体づくり」として、キャンパスに隣接する本田町集会所で、ヨガを取り入れた健康体操や、血管年齢測定、健康な体をつくる講話等を行いました。12月～1月に計3回実施しました。



2件目は人間発達学科の仁藤ゼミの「しらゆり森のようちえん&しょうがっこう」です。

本学キャンパス内の自然と触れ合いながらアート作りをしたり、体育館で木のおもちゃを使って遊んだり、母親と子どもと一緒に楽しんで活動できる会を11月、12月に2回実施しました。



2020年度図書館関係会議・研修会報告

本学図書館は、日本カトリック大学連盟図書館協議会および、東北地区大学図書館協議会、私立大学図書館協会に所属して、大学図書館間相互の連携によって利用者へ充実したサービスを提供しています。

2020年度は、コロナウィルスの影響により、各種総会等が中止、または縮小してメール会議やWeb会議に変更となりました。

日本カトリック大学連盟図書館協議会は、本学が会場となる予定でしたが、県外への移動自粛のため2021年度に延期となりました。

私立大学図書館協議会総会は、集会形式を止め9月にメール会議で開催することになりました。テーマは「大学図書館のコレクション構築を考える」として、大学の特色あるコレクション蒐集について長期的にどう計画するかと

いった内容でした。講演は「Zoomウェビナー」によるリアルタイム配信」として、講演会やシンポジウム形式の会をオンラインで開く場合に有用な配信方法として紹介がありました。

東北地区大学図書館協議会も9月、同様にメール会議で開催となり、新型コロナウイルス感染症対策の具体的な取組みやコロナ下での今後の電子図書館サービスの整備計画について協議事項として各館で意見を出し合いました。

2021年になってワクチン接種がようやく始まりましたが、まだ予断を許さない状況に変わりはありません。今後も会議等の開催・参加を含め先行きが見通せないところですが、引き続き感染対策を徹底しながら各加盟館と協力して、困難な状況に対応していきたいと考えています。

障がいのある方へ

障がいを持つ方の図書館利用に関する質問や案内、サポート等に対応します。希望する場合は図書館スタッフにお申し出下さい。図書館は、バリアフリー設計となっております。

図書館報バックナンバー <http://sslibrary.sendai-shirayuri.ac.jp/>